津波てんでんこ。

明日のために。

いざという時、自主的な判断、日頃からの訓練、備えが大切に。

「津波てんでんこ」とは、三陸地方に残る言い伝えで、津波が来たら親子てんでんばらばらになっても、かまわず高台へ逃げろということ。

津波襲来時、岩手県の釜石東中学校と鵜住居（うのすまい）小学校の生徒・児童約570人は、直ちに避難。中学生が小学生の手を取り、より安全な場所へと避難し、全員が助かった。

最初は予め避難先に指定されていた「ございしょの里」へ避難。しかし、施設裏の崖が崩れている様子などを見てさらに内陸側の介護福祉施設へ走った。その直後、そこにも津波が迫ってきたため、最終的には国道45号方面の高台へ避難した。

彼らは、"てんでんこ"の教訓とともに、防災教育や避難訓練で培われた「想定にとらわれるな」「その状況下で最善を尽くせ」との教えを忠実に実践し、主体的な行動により自らの命を守り抜いた。

それは日頃の防災教育や訓練の成果が発揮された結果であり、災害に備えることの大切さを教えている。

大津波警報の中、避難する釜石中学校と鵜住居小学校の生徒・児童たち

群馬大学 片田敏孝 教授 提供